

# ふみこ句日記

2000/5/51

## はじめに

昭和四十八年九月浅野房子さんと三朝温泉への車中、山下光子に出会ひ三朝の病院に療養中の大塚さんを見舞う旅だったが、話は吉川美佐姉のすすめにより京鹿子火曜教室に浅野さん 小田澄子さんが入会

10 sssa b c 10 sssa b c

九月初旬会に出席した様子だった。私も一か月おくれて 十月よりともかく出句した。

造る書くと言うことには全々自信のない出発だからあまり進んだ気持ちでは」なっかった。以来 もう止めるを繰り返した。美佐さんへの義理を続けていると言った。

そして十八年の年月が過ぎた。納得のいく自分の句句は殆んど無い。

個人で句集を作られた句友も何人があるが 火曜火鏡 合同句集の仲間入りが精一杯のこと、それ以上自分の句を活字にのこすことは考えてもいなかった。けれどここ数年前から句日記として 整理してみようと思いついた。下手、句になっていない句 それでよい。思うばかりでなかなかとりかかれないで 二、三年は過ぎた。

今回 玉造温泉 厚生年金会館 保養ホームに入所 山下さん 悦子さんと合流するまでの一週間 一人の機を得て漸く一頁をかき出し始める。振り返り見る十八年 記憶確かでないものもあるが思い出は楽しい；



# 第1章 野仏

吉祥会で大森先生 池永先生と一緒に当尾の石仏を巡りて

野仏の笑ひ在せり曼珠沙華

「草紅葉」兼題 幼き日の思い出

日を浴びてままごとの子や草紅葉

「顔見世」 去年は文友会で顔もせに。今年はただ思い出のみ

顔見世の名残を夢に見しも去年

お隣の浅野まゆみさんかわいい日本髪で

髪結ひて寝ず娘は待つ初詣

相川北通りの家根笹の中で狂い猫

猫の恋根笹の乱れ昨日今日

3  
・  
8  
・  
26

49  
・  
10

49  
・  
8

上京の車中 浜松あたりで遠連山をみて  
山の色幾重の果の雪解光

## 第2章 all

野仏の笑ひ在せり曼珠沙華 19730900

日を浴びてままごとの子や草紅葉 19731000

顔見世の名残を夢に見しも去年 19731200

髪結ひて寝ず娘は待つ初詣 19740100



## あとがき

母が亡くなってもう二十年が経つ。この句日記は母が残したもののうち最も大切に保管していたノートだった。このノートの俳句だけは、葬儀の直後の他人に頼んで入力してもらい、フロッピーでうけとり、横山武史氏に渡すと彼のホームページ「C」のなの部屋に950句がだれでも見れるようになった。この「なの俳句」は閲覧回数も多く

かつては「イッ」で検索すると「大月夜唐招提寺の庭にイッ」がヒットしたのには驚いた。

横山実習室へはいまでも 検索で入れる。 <http://www.geocities.jp/takefumi1604/index.html>

母は句集の出版を望んでいなかったのに、横山実習室に放置したままだったが、私の身辺整理に一環としてこのノートの添え書き部分も「EXファイル」にしてみた。平成三十年四月から始めて 3ヶ月 かかった

この本を印刷するつもりはないが、pdf で配布できるようにしたのが私の役目だった  
1000句のなかで 母おきにいりの句を 第3章にまとめてみた。そのなかで

端居して出世無縁の長寿眉  
を代表作としたい。

平成三十年七月

吉川竹四郎